

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

▼ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		玄関先、事務所内に理念を掲示し、常時職員の目にとまるような環境に取り組み、新人職員に対しては、入職時新人研修を行っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		入職時に新人研修を行い、その後はフロアー会議などにて、それに基づいたケアの実践ができるように取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営推進会議で自治会長さんとの交流を持ち、色々な催し物のお誘いに参加させてもらっている。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		散歩にて近隣の方と会釈、声の掛け合い、地域のボランティア方も気軽に出入りでき、密接な関係が構築できるようにしている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		運営推進会議で自治会長さんのご配慮により、もちつき大会など、機会があれば参加している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>グループホームという表札を掲げることにより、近隣にお住まいの方が来訪され、介護保険制度他の質問に応じている。尚、地域包括支援センター、自治会長さんと連携し、情報交換をしている。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価の結果は、運営者、管理者、職員全員に目を通していただき、再確認を行っている。ご家族様には、評価の結果をコピーし、内容の説明を行い、受領書を頂いている。</p>		
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、入居者のご家族、自治会長、地域包括支援センター、本社職員、管理者で構成し、意見交換をし、助言を頂戴している。会議内容は議事録を作成し、いつでも内容が確認できるようになっている。</p>		
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>疑問点発生時は、早急に本社職員や管理者がさいたま市に連絡を取り、解消に努めている。</p>		
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、入居者の4名が成年後見人制度を利用されていたので、ホーム内にてレクチャーもあり関わる事ができた。</p>		
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束委員を設定し、会議を行い、見直しを定期的に行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には管理者・本社職員が説明を行い、理解を頂いている。十分な理解を頂けない場合は、日を改め説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>生活を共にする中で、人間関係を構築し、直接入居者が意見や不満を訴えた場合は、管理者及びスタッフがその場にて対応している。ご家族には、通信網などの手段を利用して、話せる機会ができるよう努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>定期的に広報誌「ふれあいつうしん」を作成し、ホーム内外の出来事他をお伝えしている。一時預かり金は毎月、その都度報告業務をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様の苦情や不満は、管理者まで伝達するようなシステムを構築している。訴えのあったものは、管理者中心に責任をもって解決を行い、今まで解決できなかった内容はない。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見交換ノートやフロアー会議などで、各自に発言の機会を設け、発言を行っている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日々の申し送り、連絡帳、会議を通し、情報の共有を行っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>会社自体の内部転勤・転入もあるが、入居者との信頼関係を築くために努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修にて行っている。その他研修は開催できていない。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などの交流や研修の掲示はその都度行っているが参加できていない。		今後は積極的に参加していきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間の徹底やスペースの確保をし、ストレスにならないように配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当、各業務の係の分担を決め、その都度推奨している。担当に対する責任は管理者が全て責任を持ち、担当者が自由によりよい発想をいだいて業務に就けるよう心掛けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の入居者の訴えは、当事者が居室担当またはホーム長へ申し送り、必要があれば管理者が対応にあたっている。管理者はできる限りご家族と一緒に(契約時に協力依頼あり)入居者の困っていることを悩んで頂き、解決している。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談、来訪時など、時間をとり配慮に努め、あまり来訪されないご家族にも介護計画作成時期などを用いて伺い、一緒に介護計画の作成を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訴えがあった時は、早急に対応している。管理者他不在の際は、緊急の必要性をご本人、ご家族に確認し、管理者まで行くようなシステムを取っている。(管理者の携帯電話24時間対応)		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は不穏になられる傾向が多いため、徐々にグループホームの生活に慣れていただけるようサポートに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方の生活上必要な援助は行うが、一緒に生活しながら様々なことを学んでいる。料理や洗濯などは昔ながらの良い知恵などを伺ったり、職員の相談事を聞いていただき、良きアドバイスを頂いている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	様々な思いで入居に至る為、その都度ご家族の思いを理解し、職員に伝達して対応している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族への行事参加依頼や、ホーム内のご様子を定期的の報告している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の知人の方が面会に来られたり、手紙のやり取りをされることを支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	出来る限りフロアーに出て来て頂き、他入居者と交流機会を作り、又は外出、ドライブなどの機会を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された方や、亡くなられた方のご家族より連絡いただいた時などは、対応している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、生活スタイルを一番に考え、介護計画を立てている。ご本人に判断が難しいケースは、ご家族に現状を伝え、ご意向を伺い、介護計画を立てている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に発症経過シートの記入をお願いし、生活歴の把握に努めている。不明時はその都度ご家族に連絡を取り、ご本人らしさが失われないよう配慮している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1日、1週間、1カ月...と一度で判断せず、長期的に観察を行い、精神面の考察を一緒に行い、入居者を把握するよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一般的な高齢者の過ごし方を大枠として、そこから枝分かれにて個別ケアに徹している。ご本人、ご家族と連絡を取り、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の変化時、又、3カ月ごとにもモニタリングを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に対する関連記録をCPと題し、ケース記録に記入し、後で振り返る際、分かりやすく参照できるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じさいたま市の場合、ご本人やご家族の希望にあった支援ができるよう、その都度、相談に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の消防訓練など積極的に行っている。近隣のあすか保育園との交流もあり、運動会、敬老会など交流を含め、良好な関係が築けている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	柔軟に対応できるよう、努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの方など、必要に応じて相談を行っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期往診をはじめとし、必要時は優先的に診察をして頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症に理解を示して頂けるので、認知症の重度な方でも、柔軟な対応をして下さる。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問の看護師の方と情報の交換を行い、必要時は訪問看護サービスの利用も行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は原則、治療期間のみとしており、担当医がグループホームでの生活が可能である見解ならば、ご家族と相談し、積極的に退院の許可を求めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護計画更新時には、必ずご家族の方と今後の方向性を相談し、重度化他に発展しそうな時は様々な検討を行い、介護方法などご家族との相談を蜜に行っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームの中では、できること、できないことを明確にし、毎日の介護に当たり、終末期にはご家族、かかりつけ医、職員間で何回も話し合い対応してきた。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供及び転居されたご家族から連絡をいただいた際も、協力支援を行い、生活環境の変化が認知症の方には非常に大きな影響があることを、その都度お話しさせていただいている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>記録もイニシャルにて記録し、個人情報を取り扱っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>できることは自分で、できないことは見守り、一部介助しながら行い、ご本人のストレスにならないよう、配慮も合わせ支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の日課はあくまで目安で、入居者の希望を取り入れ、散歩や買い物、時には外食にも出かける。玄関にも鍵はかけておらず、間接的な身体拘束も行っていない。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>毎月1回の出張美容で、理美容のサービスを行っている。個人行きつけの店は家族対応でお願いしている。入浴時、起床時など整容にも心がけて取り組んでいる。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作り、買い物、スタッフと下ごしらえ、調理、盛り付け、配膳、食べる、下膳、片付けを毎日共同作業で行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>嗜好品の禁止は行っていないが、かかりつけ医からの指示があった場合は、見合わせる場合がある。(現在、ドクターからの指示なし)</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>排泄介助されている方は、排泄チェック表にて、何時でもすぐに分かるようにしている。及び失禁増加傾向の方にも、すぐにチェック表を開始し、パターンを把握し、トイレ誘導を行い、気持ちよく排泄できるよう努めている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴を希望され、バイタルに問題がない時は入浴して頂いている。入浴嫌いな方でもその方のタイミング、様々な声かけにて対応している。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>居室の温度管理など行っている。昼夜逆転にならないよう必要に応じて休息を促している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>契約時に発症経過シートをご家族にお渡しし、生活歴の把握を行い、それに基づいて毎日の介護を行っている。趣味、ホーム行事以外の活動も、ご家族と相談、協力のもと行っている。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理ができる方は、ご家族相談のもと、お金を所持頂いている。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>基本的には、散歩や買い物などで、1日1回外に出るように心掛けている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>できる範囲の外出は行うが、個別の希望はご家族の協力をお願いしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の要望、必要時、事務所のものを貸し出し対応や、携帯電話を持ち込まれている方もおり、支援に努めている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は設けておらず、基本的に24時間行っている。いつでも気軽に来訪できるように配慮されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当職員をおき、伝達他を行っている。身体拘束は、入職時や新人研修にて学びの場を与えている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ご本人自ら居室の施錠してしまわれる以外はしていない。夜間は防犯上、玄関の鍵をかけている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中の所在確認は随時。夜間も定期的に巡回を行い、入居者の方の安全確認を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品庫以外は施錠なし。洗剤他の危険と思われるものは、入居者の目の届きにくいところで管理を行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	新人研修で学びの場を与えている。事故防止に対しヒヤリハットを積極的に記入してもらい、事故防止に努めている。事故が起きてしまった時は、事故報告書をもとに、全スタッフで再発防止策を頭に入れ、勤務にあたっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	新人研修で学びの場を与えている。毎年行う消防訓練を通し、119番の通報訓練や消火器の訓練も行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練などで、避難経路や災害時の対応を訓練している。地域、隣近所の方とは、毎日の挨拶から、自治会とは自治会長さんを通し、色々と協力頂いている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者の方の処遇に関しては、居担中心に、その都度確認を行い対応している。ホーム側からは、できる限りできることは行うの考えで処遇を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の体調の変化はスタッフ間で情報を共有し、かかりつけ医、ご家族への報告を行っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今飲んでいる薬のファイルを使用し、与薬時は毎回確認を行っている。居宅療養管理指導で薬剤師の指導も受けており、必要時は電話にて対応して下さる。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく自然排便を心掛け、運動や摂取物等促している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛け実施を積極的に行っている。必要な方には、うがい薬での口腔洗浄も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が難しい方には、小まめに提供し、必要量の達成を目標としている。		カロリーチェックまでは出来ていないので、検討したい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザの予防接種を、体調に不具合ない場合は入居者、スタッフ共に励行している。外出後の手洗い、うがいは、上記同様行っている。また、来訪者の方にもお願いしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	買い物は毎日が基本とし、賞味期限、消費期限が切れたものは一切使用なし。夕食後はまな板を含め、毎日ハイター浸けを行い、シンクの熱湯消毒、布巾の煮沸消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺には花を植え、一般家庭と同じように親しみやすく配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には花やその日の天候により適度な明るさを調整し、トイレ内は異臭がしないように配慮している。生活感や季節感が感じられるように、備品の展示にも配慮している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところどころにソファを設置し、少し休むことができる配慮をしている。和室もあり、居室以外のスペースも用意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洗面台、エアコン、クローゼット以外は全て、ご本人の愛用のあるものなどで持ち込みをお願いしている。左記により、早くグループホームでの生活に慣れて頂き、今までの生活をして頂くことを基本と考えている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日の天候を考慮しながら、適切に調節を行っている。臭いのもとになっているものの排除を基本としている。冬季はトイレ内の暖房を使用し、温度差が出ないよう配慮に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行空間には全て手摺りが設置されており、できる限り自分の足で歩くことができるよう環境を整えている。居室空間は安全かつ自力で生活しやすいことを基本としている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	失敗をした場合、原因の追究を行い、次に失敗をしないような環境を整えている。ご本人がストレスにならないような配慮と、失敗しないような具体策のバランスを考え、対応している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に畑や花壇があり、入居者の方が自由に行けるようになっている。花の水遣りや畑の収穫なども入居者の方が行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ふれあい多居夢大宮は、平成15年8月開所以来、その人らしさを大切にケアをしてきました。十人十色ではありませんが、様々な経験を積み生活されていた方々が、一緒に生活を行うことは、個人差もありますが、多少なりともストレスになると思われ、その人らしさを尊重した個別ケアを重ねてまいりました。その結果、日に日に「ふれあい多居夢」というもう一つの家族の様な存在がいつしか芽生え始めている気が致します。昨年ターミナルを迎えたある入居者様に他入居者様が心をこめて鶴を折って下さったり、早く元気にと声をかけてくれた入居者さんもあり、胸が熱くなったことが思い出されます。日々、色んなことがあります、何よりも入居者様の笑顔がスタッフにとり、かけがえのないものになっています。